

# 着心地評価のための被服圧計測用ダミーの試作

○山藤利加\* 小竹美香\* 山田智子\*\* 伊藤紀子\*\*\*

(\*鳥取大・院 \*\*赤崎高校 \*\*\*鳥取大)

【目的】 本研究では、伊藤らの研究成果を基に被服圧計測用上半身ダミーを試作し、その有用性を婦人用肌着を用いて検討する。また、下半身ダミーについては、ダミーの有用性を高めるためにガードルを用いて検討する。

【方法】 下半身ダミーの有用性は、ガードル7種類を用い下半身ダミーと被験者の実測被服圧を測定し、両者の実測被服圧を比較検討した。また、大腿部における下半身ダミーの推定被服圧を算出し、各部位の下半身ダミーの実測被服圧と比較検討した。上半身ダミーの有用性については、婦人用肌シャツ、長袖10種類、半袖5種類を用い、下半身ダミー同様に上半身ダミーと被験者の実測被服圧を測定し、各部位の両者の実測被服圧を比較検討した。また、試作した上半身および下半身ダミーのアパレル製品の快適性評価のための有用性についても検討した。

【結果】 下半身ダミーのガードルの大腿部における推定被服圧と実測被服圧は、1.5kPa以下で近似した。下半身ダミーおよび被験者のガードルの実測被服圧は、腹部、腰部、臀部、大腿部前面、大腿部後面において近似し、下半身ダミーの有用性の高いことが明らかとなった。上半身ダミーおよび被験者の実測被服圧は、胸部、上腕部、前腕部において一部の試料を除いて近似した。また、上半身および下半身ダミー上で求めた被服圧や総計被服圧は、被験者の着用感評価と高い相関が見られ、試作したダミーは、快適なアパレル製品の評価開発に有用であることが明らかとなった。